

ヨコハマ市民まち普請事業

第2次整備提案書



※ 記入上の注意

- 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
- 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

1 整備提案の概要について

整備提案名	登り窯付属施設及び周辺環境の整備
提案グループ名	登り窯と永田の自然を守る会
整備場所の所在地 (町名又は丁目まで記入)	南区 永田東1丁目31-12
整備したい施設の概要	窯場を地域で保存・活用することを条件に公に寄付したいという地権者の意向を受け、6年前より地域の人々が集い意見を出し合い整備をしてきました。今回、窯場を地域住民が参加し活用していく活動の為に集い・憩いの広場（ふれあい広場）として整備します。①支障となる倉庫を移設した空地を含め用地整備を行います。②クヌギ・コナラなど由来樹木や由来植物を植え、遊歩道を整備し、極力人工的とならない様な整備を行います。③水路への湧き水の流入量を確保する為、法面下に側溝を設置し染み出ている湧き水を集め、更に井戸の水をポンプアップし水路に流します。同時に水路拡張に関する予備調査を実施します。
整備助成金申請 予定額	499.6万円
設計及び整備の スケジュール	平成19年1月～3月 基本計画検討 4月～5月 詳細設計・図面の作成 6月 見積実施 7月末 業者決定 8月～平成20年1月 整備工事実施

2 創意工夫について

計画について工夫した点を記入してください。 (住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ)	窯場の文化・自然遺産を保全し地域で活用する為、建物修理、コミュニティ・スペース設置、ホタル復活を目指した湧き水水路整備、ビオトープ挑戦、日本タンポポの保護、草刈管理などを会員・地域の方々で行っています。更に多くの方々に来て頂く為には、窯場に残る地域の自然を実感でき、且つ地域住民が活動できる集い・憩いの広場整備が是非とも必要であるとの点で意見が一致し、今回まち普請事業に応募させて頂きました。2年前より整備予定場所に雑木を植え、古木を守り、往時の地域の植生復活を目指して、地域の人々で緑を守り育て、計画の準備をしています。
---	---

<p>整備工事における地域での費用や労力の負担方法などについて工夫した点を記入してください。</p>	<p>整備工事の内、倉庫移設・資料移動・草刈・樹木剪定・遊歩道整備・植生移植などは、今まで通り会員・地域の方々に作業を実施します。又、陶芸や自然観察などで交流がある地域の小学校の生徒さんの参加を得て行っていきます。守る会独自で行う整備工事を確実に実施する為に、催し時、会員の勧誘を積極的に行い、陶芸活動を活発化して、資金の蓄積に努めています。</p>
<p>整備した施設の維持管理・運営計画及びその実施方法などについて工夫した点を記入してください。</p>	<p>守る会活動の一環として、地域の人々の協力を得て、維持・管理・運営を行い、公開日の増加を計り、より多くの方々に利用して頂くようにします。特に整備部分を含めた窯場全体の自然保全・保持に関しては、年間4～6回草刈を実施し、良好な状態を保つ活動を継続していきます。水路の延長・ビオトープ築造については、今回水みちの確認・調査を行った後、会員・地域の方々と順次整備していくこととします。整備に参加してくれた小学校の生徒たちにも、引き続き校外活動として参加してもらいます。また、集い・憩いの広場整備後は、窯場を文化的活動の場としても活用する為、例えば参加型現代アート発表などを企画し、参加者を増やしていきたいと考えています。</p>

3 実現性について

<p>地域（地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等）での合意形成や関係機関との調整の結果について記入してください。</p>	<p>地権者は、当事者及び会員であり、整備計画策定時より参加し、合意のもとに実施しています。近隣住民の方々には、ちらしを配ると共に説明会を開催しました。自治会町内会役員の方々には役員会で進捗状況を説明し、意見を伺いました。いずれも、地域への貢献を理解してくださり、整備について賛意を示して下さいました。今回の整備場所に関して、関係機関は特にありません。</p>
--	--

4 公共性について

<p>地域のどのような課題やニーズに基づいて整備計画が作成されたのか、また整備した施設が地域にどのくらい貢献するか記入してください。</p>	<p>当地は開発が進み、往時の自然は殆ど失われてしまっています。その中で窯場には、数少ない人が入れる貴重な自然が残っており、地域の方々や小学校から、体験・実感の為公開して欲しいとの要望があり、発足時より150名を超える会員により支えられています。会員・地域の方々を中心にして、子供たち・人々が集い・憩える場として整備する計画を策定し順次実行してきました。今回のふれあい広場の整備により、子供たちの地域学習・体験学習の場として、また地域の方々のふるさと体験施設として、地域コミュニティ意識の共有化を通じた住民意識の醸成に寄与し、今後も地域活動の活性化に貢献できると考えています。</p>
--	--

5 費用対効果について

<p>整備コスト縮減について工夫した点を記入してください。</p>	<p>整備項目について検討した結果、当初の整備案では、費用・作業量が多くなることが判明した為、窯場の文化活動施設整備については、守る会独自に整備を実施していくことに致しました。従って、今回提案させて頂く整備計画は、集い・憩いの広場整備に特化し、草刈・倉庫移設・整地など守る会会員や地域の方々等の技術提供・労力提供で実施可能な範囲を分担して実施することを前提として立案しています。又、道志村間伐材を、遊歩道やベンチなどに使用することを検討しています。</p>
-----------------------------------	--

6 地域まちづくりへの発展性について

<p>整備をきっかけとして、地域コミュニティが広がる又は深まる可能性、及び地域のまちづくり活動が活発化する可能性について記入してください。</p>	<p>窯場に残る往時の地域の自然を保全・活用する整備を行うことにより、地域の人々が有意義に利用できる公開の条件が整うこととなります。このことにより、地域の人々が集い、交流し、活動の輪が広がり、住民自らが窯場を活用しながら活動することを通じて、地域の活性化が図れると考えています。また、今までも一部交流があった地域の小中高校生の、陶芸・自然保全・地域の歴史研究などの校外学習の場として定常的な交流が活発になることを通じて、青少年の地域理解が深められると考えています。</p>
---	--

7 特にPRしたい点について

<p>提案について特にPRしたい点があれば、記入してください。</p>	<p>窯場は、地域に残された往時の自然を保全した集い・憩いの場として、貴重な場所です。①登り窯産業遺産の保存を通じた地域の歴史顕彰、②地域の人々の交流の場、③陶芸など文化活動体験の場の活動を通じての地域の特徴を実感できる活用には、自然を保全しつつ安全に集える場としての整備が不可欠です。今まで会員及び地域の人々の手で整備・管理を行ってきましたが、今回の整備提案は、平成17年度南区役所殿実施の登り窯修理助成事業の意義を高め、且つ地域へ公開する上に於いての必須な整備です。今回の整備により、ゆったりとした気分で、地域の歴史、地域の特徴、地域の文化を実感することが可能となります。また、窯場を地域住民の方々が多方面の活動に活用することにより、住民活動の活性化を通じた当地域の特徴ある街づくりに対する影響は、計り知れなく大きいものと考えています。</p>
-------------------------------------	--

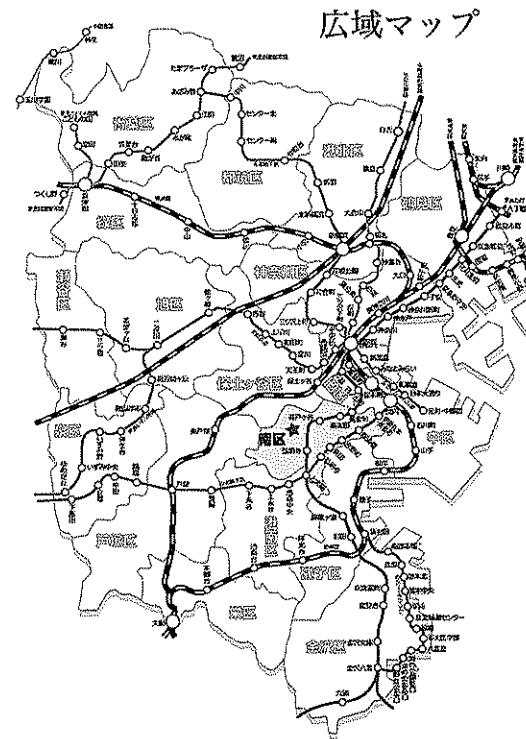
記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

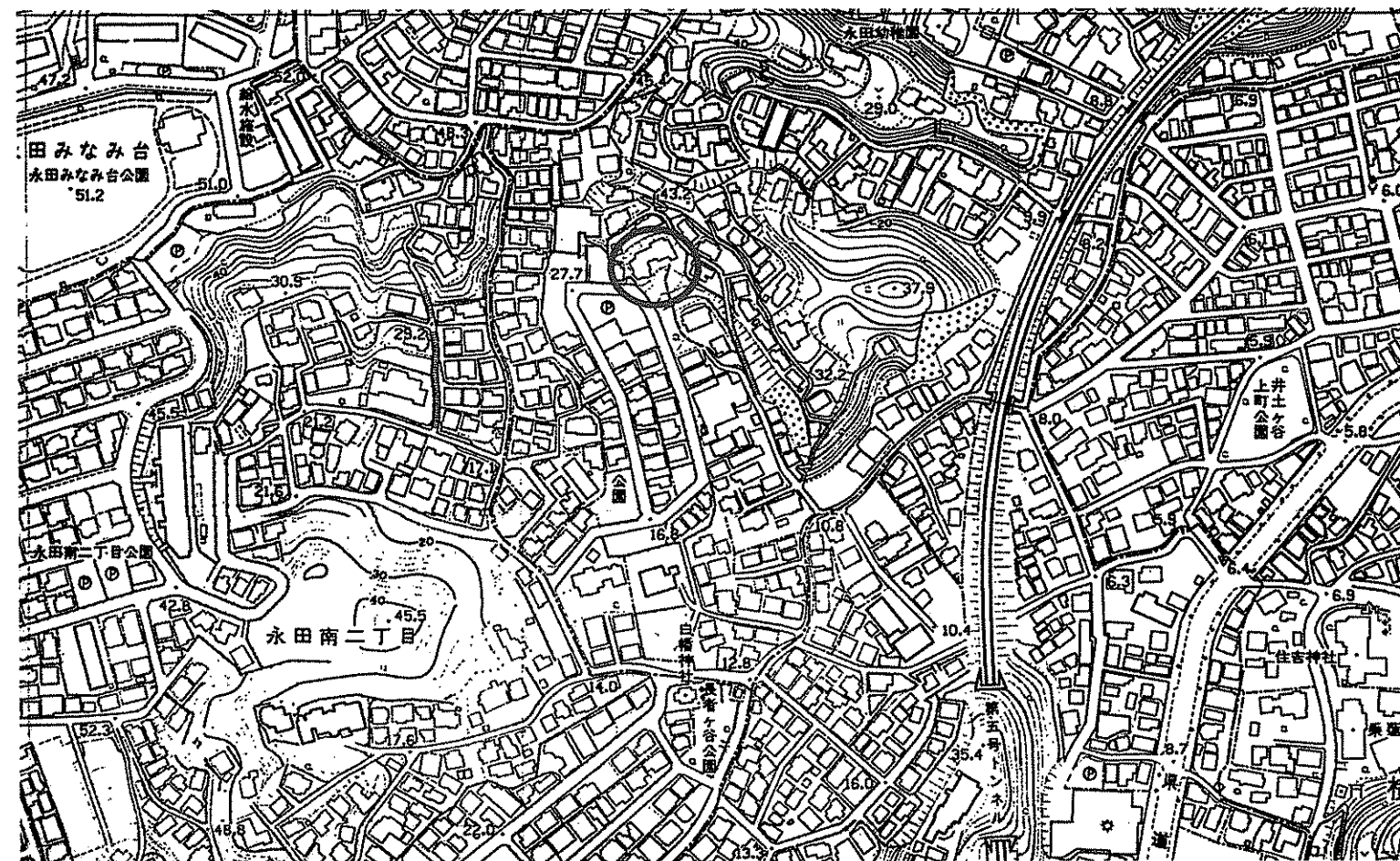
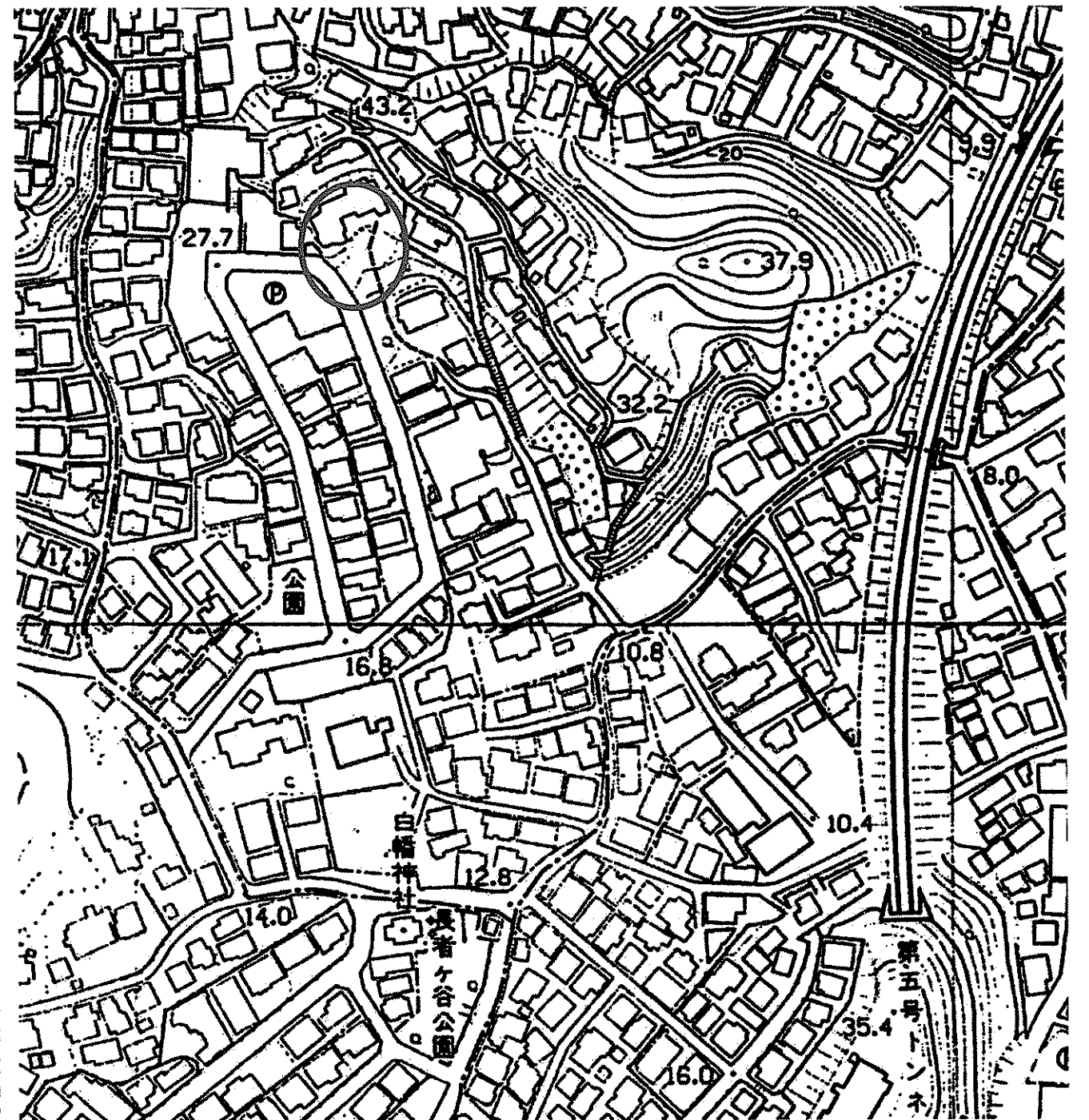


位置図

所在地：南区 永田東1丁目31-12



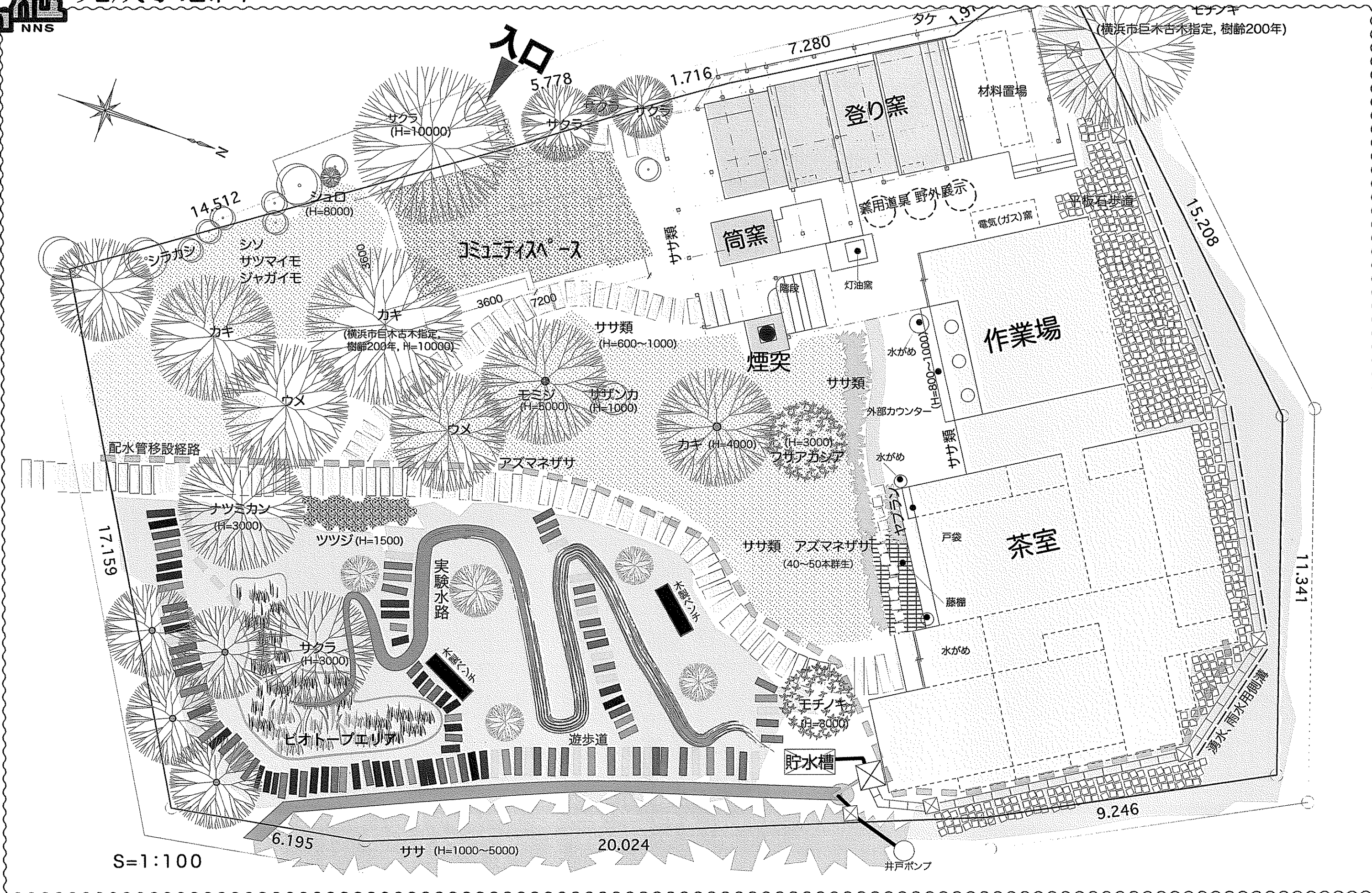
登り窯



昭和38年頃の永田地区



完成予想図





現況平面図



永田の登り窯と自然の里全体マップ

窯場の自然

“人が安心して住めるところ”

ここには、永田の往時の自然が切り取られた様に残っています。人が生活していく上で最小限手を入れ、守っている自然であり、谷戸の自然や里山と呼ばれている文化的景観です。薪や落ち葉を利用し山菜や木の実を得、畑を耕し、植物・昆虫・鳥・小動物・人が共存し、穏やかに暮らしている環境なのです。

- 春：梅、日本たんぼぼ、桜が咲き、カエルが卵を生む。
- 初夏：新緑が眩しく、サワガニが活発に動き出す。
- 盛夏：緑陰に蝉時雨が響き、蝶道をアゲハチョウが飛ぶ。ピオトープにガマが茂り、ヤンマが産卵する。
- 秋：柿が実り、全体がセピア色になる。カマキリ、女郎ゴモが最後まで活動している。
- 初冬：草刈、落ち葉拾い、樹木剪定に追われる。
- 晩冬：池に氷がはり、霜柱が立つ。日本スイセン、梅が咲き、フキノトウが顔を出す。

登り窯：産業遺産

耐火レンガ造りの3連の登り窯です。職人数人で半年かけ作品を作り、7日間焼成していました。焼かれた陶磁器は大岡川を経て横浜港に運ばれ欧米へ輸出されていました。



煙突：薪窯の排気塔

良斎が戦後使っていた薪窯の煙突で、窯場の象徴となっています。

横浜市名木古木指定

境木：樹齢200年

江戸時代後期に農家の敷地の境に植えられた境木です。タブの大木で、登り窯を守るように茂っています。

仕事場

良斎が50年に亘って作陶活動を行った仕事場です。大正時代に建てられた木造トラス屋根式を持ち、懐かしい気泡を含むガラスが窓に使われています。戦前の手廻しロクロが残っています。

茶室・旧母屋

戦後進駐軍の将校家族が多く訪れ、日本の自然と茶道を楽しみました。茶室の天井は、ヒワダ葺きのめずらしい作りです。



横浜市名木古木指定

柿の大木：樹齢200年

江戸時代後期に農家の畑の隅に植えられたものです。剪定をしていない美しい自然樹形であり、今でも秋には甘い実をつけます。夏の陽射しをさえぎり緑陰を生み、根元には日本タンボボやミズヒキ、ギボウシ、ツバ、せりなどの野草が生えています。

永田の畑

永田は山に畑が広がっていました。今は山王台幼稚園農園だけが残るのみです。窯場は江戸時代屋敷と畑でした。永田の特産物であったジャガイモを育てて永田の畑を復活する活動を行っています。

陶片埋設

窯出し後不良品は割られ、仕事場の前の傾斜地に破棄されました。ここには多くの陶片が埋まっています。窯場としての特異な場所です。

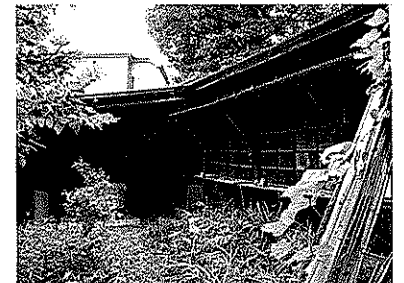
神谷水路

谷戸の山からしみ出し、流れている湧き水で水路を造り、ホタルを復活する活動を開始しました。先住者のサワガニとの共生を前提に計画しています。

日本たんぼぼ

在来種の日本たんぼぼの100株を越すコロニーがあります。春には一面黄色の花が咲きます。種を地域に配り、“日本たんぼぼの里づくり”に取り組んでいます。

「守る会 管理エリア」

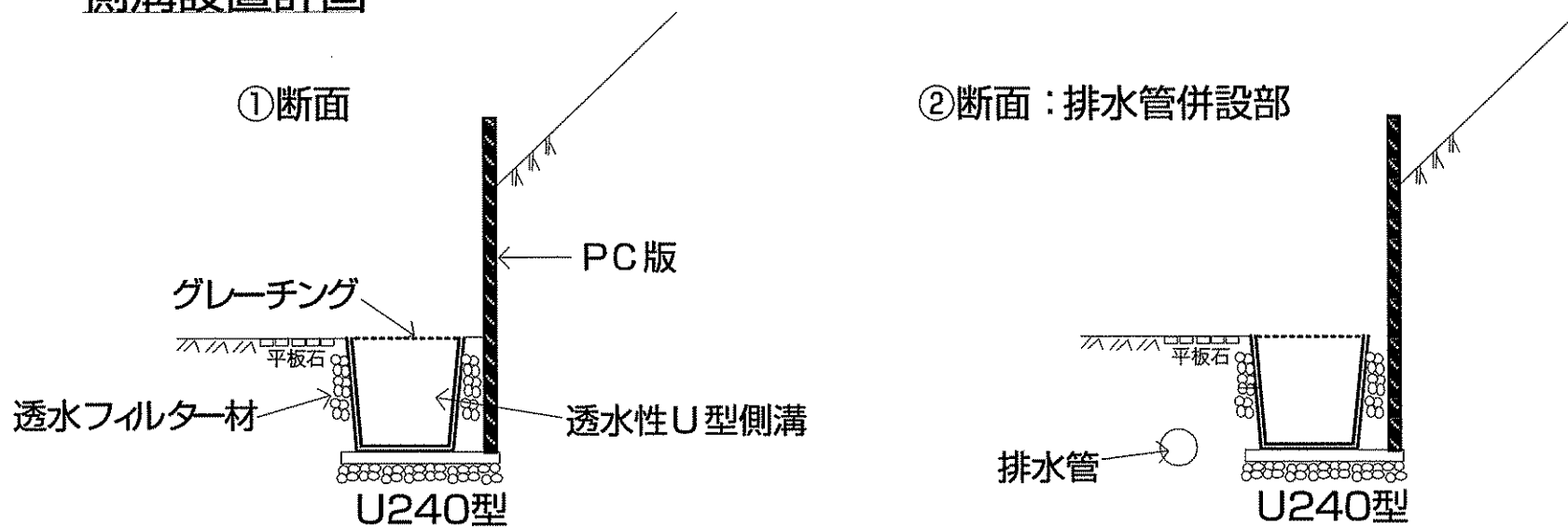


井上良斎の窯場
全景図

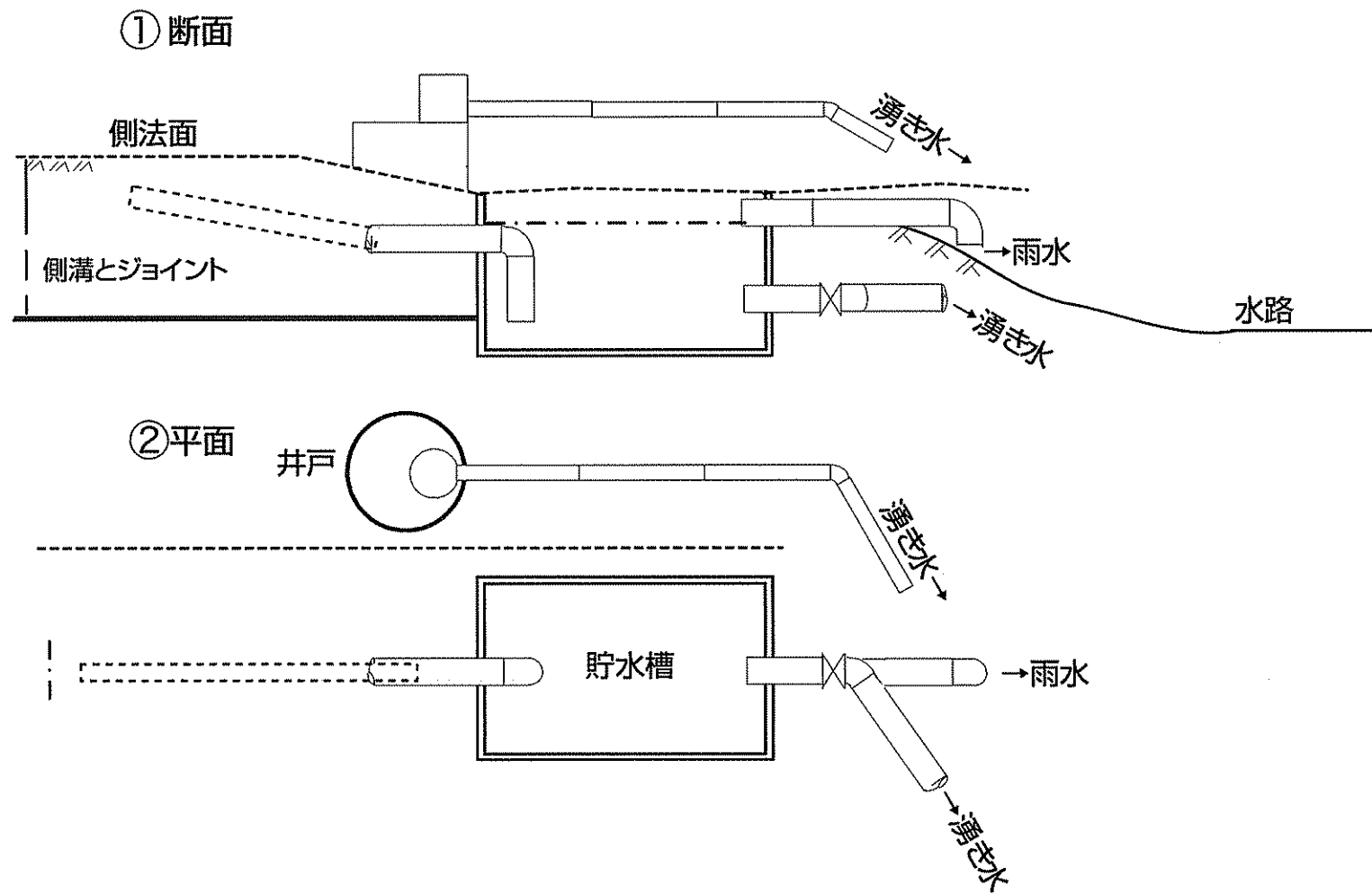


工事施工説明図

側溝設置計画



貯水槽・井戸部詳細計画



ふれあい広場 整備計画

①ベンチ、歩道の整備
間伐材等を使用した 遊歩道計画

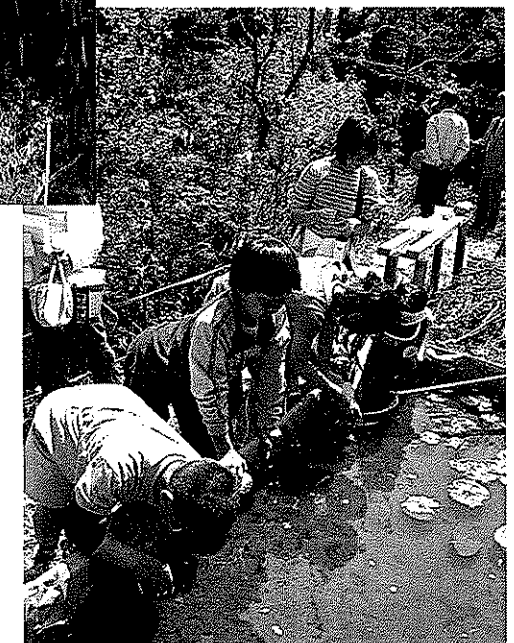


間伐材等を加工し、通路素材として活用。

②わき水、雨水等を利用したビオトープ整備



守る会のメンバー、地域の有志による
水路整備と管理

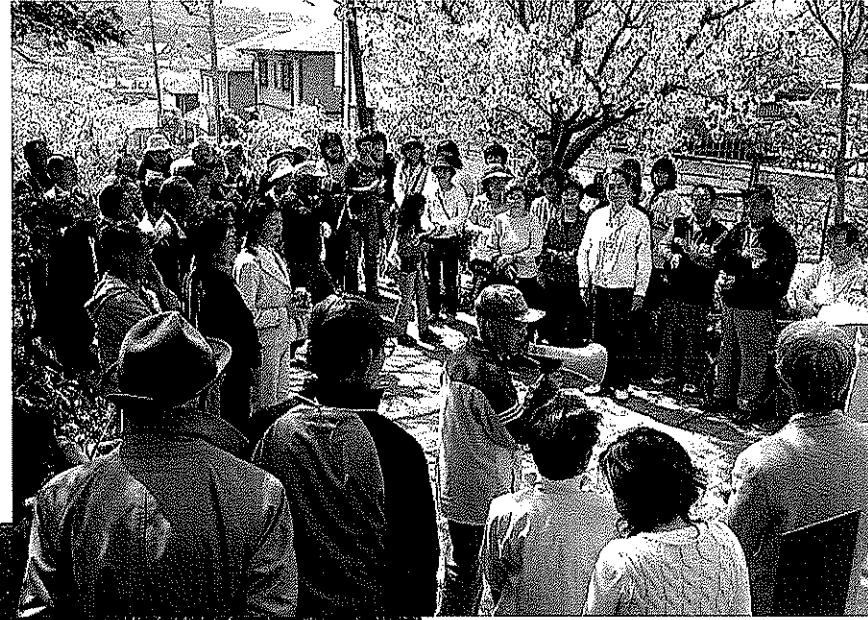




会の活動概要



2005年2月井土ヶ谷小窯場見学



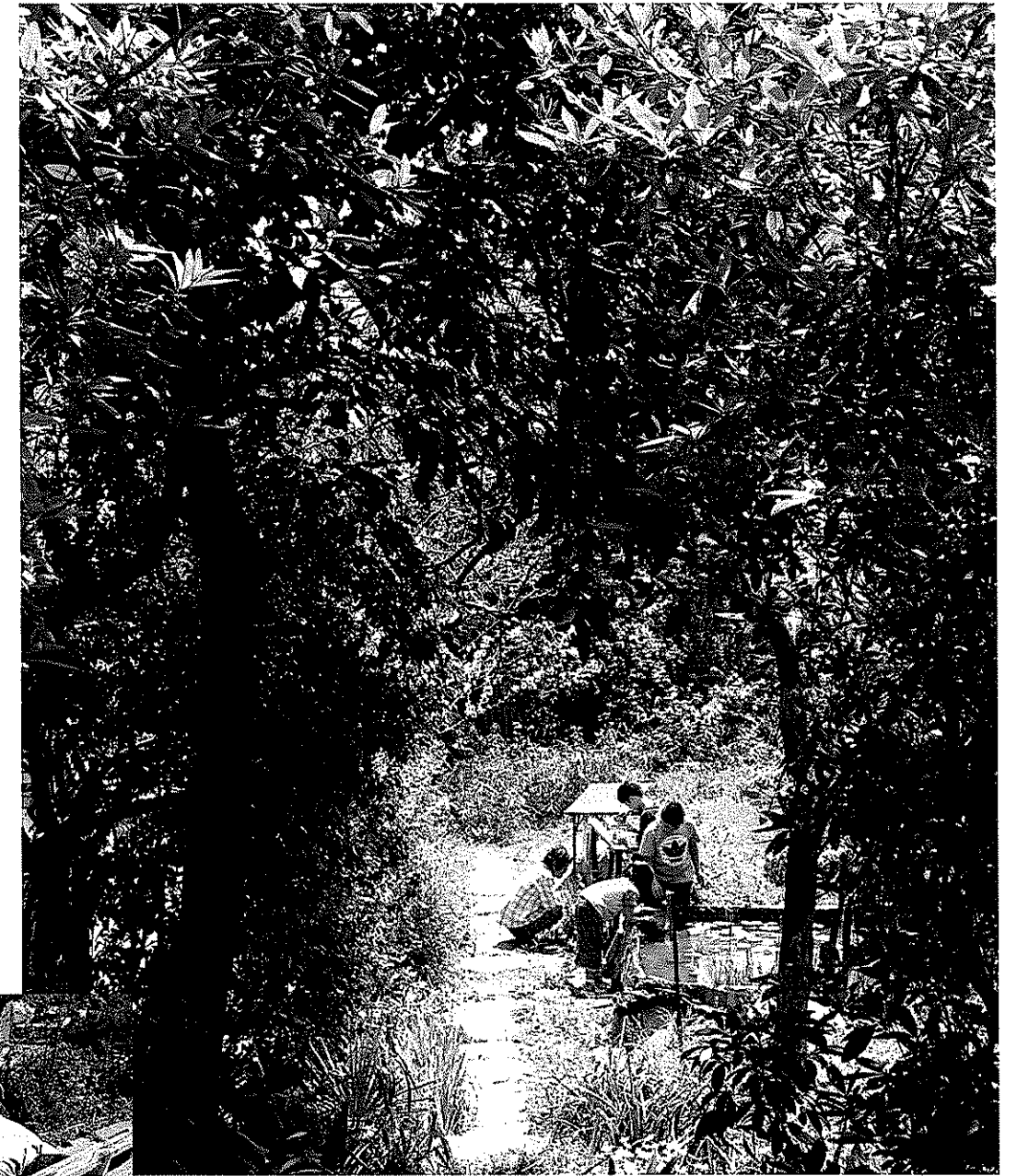
2004年4月 5周年観桜会



2002年2月 六ッ川小学校
いきいきくすの木デー参加

地域交流

永田の谷戸風景



2004年4月 5周年観桜会

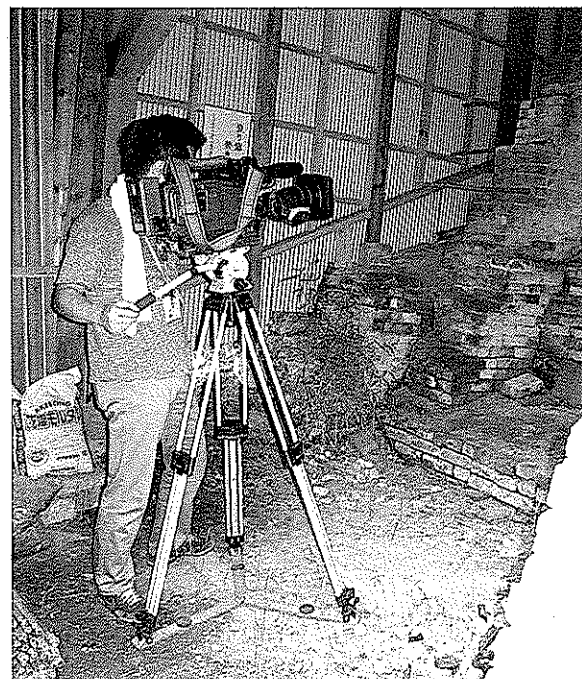
地域の支援



2005年2月 永田台小学校窯場見学



2006年8月 米国から井上良斎窯場訪問



2006年7月 横浜テレビ 取材



2002年9月 神奈川インターパブリッシング協会見学



2006年8月 南区新任教諭研修見学



2003年12月 ウォークラリー開催



2005年4月 観桜会 地域の歴史発表会

地域の子供達



2006年7月 地域子供会 陶芸教室



広報よこはま 南区版 **2** No.100 (10月23日付)

みなみ (南区の文化・スポーツ・観光・経済・教育など)

今月号の特集: 井上良高の登り窯の修復

編集: 南区広報課 発行: 南区広報センター

横浜で活動を続けた良高

井上良高は明治21年東京の浅草生まれ。浅草に窯を開き輸出用陶磁器を製造していた。大正2年に横濱に移り、大正7年には浅草の陶磁器製造所を継ぐとともに、長谷川山(大塚山)の麓に、昭和28年、陶芸家として日本で初めての文化施設を築き、指導を受けていた。

大正3年には浅草から輪田(現在の横浜駅東口あたり)に移りましたが、大正12年の関東大震災で窯は崩壊。そのため大正13年に、現在の末田東一丁目に移り窯を築き、昭和46年に82歳で亡くなるまで、この地で約半世紀に渡り陶芸活動を続けてきた。

井上良高は、昭和28年に第1回横浜文化賞、34年には日本芸術院賞を受賞。41年には日本芸術院会員となり、日本を代表する陶芸家としての地位を築きました。井上良高の主な作品は、現在、横浜美術館や神奈川県立歴史博物館などに所蔵されています。

これから守り続ける、井上良高の登り窯

大正から昭和にかけて陶芸家として活躍した井上良高の登り窯。良高が愛用していた登り窯が、私たちが今でも残っています。今月号の特集では、この井上良高の登り窯を紹介しています。皆さんも、南区の文化や歴史に少しでも残してあげませんか。





生駒の井上良高

登り窯を修復

横浜・南区「守る会」地元窯業の生き証人

地域の歴史残す異空間 隣接地で陶芸教室も

「窯業は輸出陶磁器業の一大柱で、3代目として、ヨーロッパ向けの磁器も生産し、山崎の傾斜を利用して制作。1933年の関東大震災を機に横濱に移り、現在の同市南区末田東一丁目に移り、現在も焼成中。土壁の登り窯を築き、焼成の度に約100度の熱を必要とする。修復は約1年をかけて行われ、4月に修復完了した。現在、登り窯の修復を継承していきたい」と、意気込んで語る。【稲田佳代、写真】

「登り窯は、80年以上前に築造し、傾斜の危険があった横浜市南区内の登り窯が、地元住民で作る『登り窯と永田の自然を守る会』などの手で修復された。同会は隣接する焼成窯(陶芸教室)とも併せてあり、登り窯は横浜の窯業の『生き証人』、地域での場所を継承していきたい」と意気込んで語る。【稲田佳代、写真】

登り窯は耐火レンガ造りで、山崎の傾斜を利用して制作。1933年の関東大震災を機に横濱に移り、現在の同市南区末田東一丁目に移り、現在も焼成中。土壁の登り窯を築き、焼成の度に約100度の熱を必要とする。修復は約1年をかけて行われ、4月に修復完了した。現在、登り窯の修復を継承していきたい」と、意気込んで語る。【稲田佳代、写真】



4月に修復を終えた登り窯と、守る会のメンバー。川井さんは後列左から2人目

産業遺産 後世に...

郷土学習の場に活用を

陶芸や染め物教室など

「産業遺産として残すべきは、井上良高の登り窯だ。それは、日本を代表する陶芸家としての地位を築きました。井上良高の主な作品は、現在、横浜美術館や神奈川県立歴史博物館などに所蔵されています。」

「登り窯は、80年以上前に築造し、傾斜の危険があった横浜市南区内の登り窯が、地元住民で作る『登り窯と永田の自然を守る会』などの手で修復された。同会は隣接する焼成窯(陶芸教室)とも併せてあり、登り窯は横浜の窯業の『生き証人』、地域での場所を継承していきたい」と意気込んで語る。【稲田佳代、写真】



井上良高(1898-1971) 2代目良高の長男として、東京・浅草に生まれ、1914年、陶磁器輸出のため、現在の横浜駅東口付近に窯を開く。大正7年、関東大震災のため、現在の横浜駅東口末田東一丁目に移り、『登り窯』を築き、昭和28年に第1回横浜文化賞を受賞。昭和46年に82歳で亡くなるまで、この地で約半世紀に渡り陶芸活動を続けてきた。

ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、複数の細目について、まとめて記入することもできます。

集い・憩いの広場（ふれあい広場）の整備

（単位：円）

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加（費用又は労力の負担等）
測量費		1式		200,000	
設計費	基本・詳細設計	15工	30,000	450,000	
草刈り	整備場所の草刈	200㎡	—	—	労力 10人×1日
支障物移設1	倉庫の移設	撤去25㎡ 新設15㎡	—	—	材料費100,000円 労力 6人×5日
支障物移設2	排水管100VP移設	70m	8,500	595,000	
仮設工	市道部既設フェンス撤去・復旧	5m	20,000	100,000	
U字型集水側溝設置	U-240、基礎、グレーチング設置	33.5m	27,000	904,500	
柵設置	300×300 グレーチング設置	6ヶ所	42,000	252,000	
山留め設置	PC版300×900×60 1段	20m	5,540	110,800	
井戸水汲み上げ用ポンプ設置	揚程8m、自動式	1ヶ所	170,000	170,000	
貯水調整タンク設置	600×900×500 半地下式現場打ち貯水槽	1基	500,000	500,000	
水路用配管設置	配管3m、コック付き	1ヶ所	50,000	50,000	
整地作業	整備場所の整地	150㎡	—	—	発生土使用 労力 10人×3日
遊歩道設置A	コンクリート平板使用	30㎡	18,100	543,000	
遊歩道設置B	道志村間伐材使用（運送費）	3回	30,000	90,000	70㎡用材木 労力 10人×3日
水路延長検討・調査	適正水路ルート検討の為の整地	20m	—	—	労力 10人×2日

（単位：円）

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加（費用又は労力の負担等）
植栽及び植生移植・植え付け	在来植物の活用	100㎡	—	—	労力 10人×2日
上記（直接工事費）の計				3,965,300	
現場管理費	直接工事費の12%			475,836	
一般管理費	直接工事費の8%			317,224	
工事費の合計				4,758,360	
消費税	工事費の5%			237,918	
合計				4,996,278	